

オープン  
カレッジ

私は2013年から同じ学部で映像ジャーナリズムを専門とする柄窪優二教授および柄窪ゼミの学生とともに、地域に伝わる仏像を映像記録に残し、インターネットで配信する活動を行っている。稲沢市の仏像を出発点に始まった活動は周辺地域にも広がり、一部番外編も含みながら、現在までに61本の映像記録を制作し、大学のYouTubeチャンネルと「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」というホームページで公開している。

### 映像で伝える地方仏の魅力

る。ただ、それらは一般寺院に安置されているもので、奈良や京都の観光寺院のように拝観料を払って見学する形にはなっていない場合がほとんどである。特に文化財指定を受けている場合は、災害や盗難などから守るために文化財収蔵庫で管理されている場合もあり、近くに住む人でも実際に姿を見たことがないことも多い。少子化や核家族化による宗教離れもあり、檀那寺(だんなでら)でもない地域の寺院に足を運ぶことが難しく、それほど多くないということもあるだろう。

そうした地域に伝わる仏像を見応えのある映像と、信仰と文化財の両面から分かりやすい解説で伝え、また文化財調査に関わってきた経験を生かして仏像の内部など通常は見られない視

という映像記録を制作・公開しているが、今年の2月と3月に2日間、大府市歴史民俗資料館で「おおぶシネマパラダイス番外編 仏像バーチャルミュージアム」と題して、これまでに制作した映像の上映会を開催していた。その際、参加者からは「上映会を通して身近な所により仏像があることを知れた」「こうした映像があるのを知らなかった」「インターネットで公開されている映像は見方が分からないので上映会はありがたかった」といった感想が聞かれた。このことは、博物館のように地域の人たちが世代を超えて足を運ぶことができる施設を持つ、地域への情報発信の場としての可能性を改めて考えさせられた。

## 地域文化の

# 継承目指して

かべる方が多いと思われるが、身近な地域の中にも地域の歴史や文化を象徴する貴重な仏像が残されている



檀山女学園大学  
情報社会学部准教授  
見田 隆鑑

点も取り入れながら、一般の方だけでなく専門家からも一定の評価が得られるような作品の制作を目指してきた。しかし、公開した動画の再生回数を見て、映像を公開することで地域の人たちに地元の文化財が持つ魅力を届けることは、インターネット利用率が84.9%(総務省・情報通信白書)とされる現在でも容易ではない。

大府市とは17年から協働で「大府市仏像シリーズ」

「諸行無常」は仏教が説く教えの一つだが、それは大学での共同研究という形で行っている私たちの活動にも言える。約10年続けた活動も今の形で恒久的には実施できない。残された時間の中で、あとどれくらい映像記録を制作し、発信していけるのか。今、自身に与えられた「縁」を大切にしながら、可能な限り良い作品を残し、地域の仏像たちが持つ魅力を広く伝え続けていきたい。

みた・たかあき 美術史学。  
名古屋大学大学院文学研究科博士(文学)。  
後期課程満期退学。博士(文学)。